

研究所ニュース No.66

りべらしおん



「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎内 TEL 092-645-0388 FAX 092-645-0387

Mail: info@f-jinken.com URL: http://www.f-jinken.com/



主催者挨拶をする福岡県人権研究所の森山沾一理事長

(写真左は松崎武俊さん、右は井元麟之さん、右端は福岡部落史研究会の看板)

福岡部落史研究会（公益社団法人福岡県人権研究所の前身）
設立40周年記念のつどい

「(ハ) (ハ)へ そして (こ) (こ)から」を開催

二〇一四年九月二十八日（土） 福岡市早良市民センター大ホール

九月二十八日（土）、会場の福岡市早良市民センター四階の受付には長い列ができた。五〇〇人収容のホール座席は、またたくまに満席となった。

幕が開くと、壇上右手におかれた「福岡部落史研究会」の看板、頭上に掲げられた故井元麟之さん、松崎武俊さん両発起人の写真を背に、福岡県人権研究所の森山沾一理事長が登壇し、主催者挨拶を行った。森山理事長は、井元麟之・松崎武俊両氏や先人たちの業績、四〇年間の歩みを支援して下さった方々への謝辞、さらに、今後も公益社団法人として社会的責任を果たしていきたいという決意を語った。

来賓として参列した、福岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課の森部広道課長、福岡県教育庁教育振興部人権・同和教育課の本田健吉参事、福岡市市民局人権部の西野達彦部長、北九州市保健福祉局人権推進センターの青木茂所長、部落解放同盟福岡県連合会の組坂繁之執行委員長、福岡部落史研究会の川向秀武前会長が紹介され、来賓を代表して本田参事と組坂執行委員長から挨拶をいただいた。

来賓挨拶のあと、荘厳な鐘音が会場に響き渡り、羽織袴姿の中西和久さんが登場。中西さんによって朗読される「水平社宣言」に会場は静まりかえった。

朗読に続いて、狭山事件主任弁護人の中山武敏さんが「私と母と狭山」と題して語った。福岡県直方市生まれで学齢期を久留米市で過ごした中山さんは、少年時代の母親との思い出、苦学して弁護士となり関わっている狭山事件への思いなどを話された。

講演①では、部落解放・人権研究所名誉理事の友永健三さんが「国際人権の潮流」と題して講演。世界人権宣言の採択過程、部落解放運動と国際連帯について、国連の人権基準と部落問題など、多くの資料をパワーポイントを使って説明された。



水平社宣言を朗読する俳優の中西和久さん



満席の早良市民センター大ホール

休憩をはさんだ講演②では、「エンパワメントとダイバーシティ」多様性を尊重する社会へ」と題して、エンパワメントセンター主宰の森田ゆりさんが登壇。森田さんは「人類の二つの不名誉な伝統は戦争と体罰である」「多様性とは人は皆その存在価値において等しく尊いという人権概念を核にして、さらに人は皆違うからこそ尊いとの認識に立つ考え方」と語り、後半は観客にアクションを求めながら講演した。エンディングは、北九州市の人権バンド「願児我楽夢」による歌と演奏、語りを交えたコンサート。手拍子とともに会場は盛り上がり、アンコールでは「イマジジン」を熱唱。四時間に及んだ四〇周年記念のつどいは盛会のうちに終了した。



中山武敏さん

本つどいの開催あたり、ご支援・ご協力いただいた多くの方々、関係機関・団体各位、そしてつどいに参加して下さった皆様には心から感謝申し上げます。

以下、参加者の感想を一部紹介します。○とても熱いものがこみあげてくる会でした。元気をいただきこれからも頑張れそうです。○内容がとても良かったです。部落差別禁止法制定、ぜひ実現していきたいと思いました。○願児我楽夢、そうだ！ありがとうと伝えたい。差別をなくすための思いは、これだけつながり広がっている事を感じ力をもらいました。中山弁護士さんの短い語り長い長い戦いの日々を感じました。

○あつという間の時間でした。全て、また続けて聴きたいお話ばかりでした。ありがとうございました。○四〇周年おめでとうございます。差別のない社会作りに大きく今後も貢献されるよう私もできることをやります。○「招かれなかった誕生会」を聴く度に涙が出

ます。うちの娘もそんな事がありました。

○「共感的傾聴」ハートの中を線の枠をはみ出さないようにペンをはしらせ、相手の言葉を聴きながらの能動的、反復的、具体的傾聴など。相手の心の言葉を聴きながら作業はできない！手を休め、目を見つめながら相手の言葉を聴きたい「ファシリテーター」としてのリーダーシップについて学んだ。

○大変密度の濃さを感じた半日でした。きわめて地道な活動と感じる貴所の活動ですが、ぜひ社会のアピールや専門性の提供を期待します。○今日の自身は全て心に残るものでした！とても良かったと思います。今後ますます発展して行ってほしいです。

○手話通訳の方々、表情豊かで良かったです。お疲れさまでした。部落史研究会設立四〇周年にもなるんですね。感無量です。今の子ども世界は複雑になりすぎ。だんだんと生きにくい時代になっていく気がします。○友永先生の講演でいろんな事がわかりました。願児我楽夢の語りが素晴らしい。○森田さんの講演で自由とは何か、人権とは何かをものすごく考えました。機会があればまた



講演する友永健三さん

参加したいと思います。

○四〇年の歴史が十分に感じられた講演会でした。今日は来てよかったです。(講演内容は、二〇一五年五月発行の『りべらしおん』に掲載する予定です)



手話を交えた願児我楽夢のコンサート風景



観客に語りかける

森田ゆりさん

公益社団法人福岡県人権研究所

設立四〇周年へのメッセージ

公益社団法人福岡県人権研究所設立四〇周年、おめでとうございます。部落問題をはじめとするあらゆる人権問題の解決にむけて、部落史に関する史実の発掘及び人権に関する調査研究ならびに教育啓発、出版活動を行い、人権文化の創造に寄与されてこられました貴研究所のこれまでの活動に心より敬意を表します。

来る二〇一五年は、同和問題の解決は国の責務であり、同時に国民的課題であると答申した同和対策審議会答申から五〇年、また、部落地名総鑑差別事件から四〇年という節目の年にあたります。この半世紀、貴研究所の皆様方はじめとする各界各層での部落問題の解決にむけたさまざまな取り組みが行われ、劣悪であった差別部落の環境は改善され、また、日本の人権意識は大きく高揚しました。しかしながら、一方で、今日、インターネット上での差別記載をはじめ、戸籍の不正取得や身元調査が公然と行われております。さらには、ヘイトスピーチという新たな問題が発生しており、人権が確立した社会を実現するにはさらに粘り強い取り組みが求められています。そのような意味で貴研究所の果たす役割はますます重要であります。

私ども一般社団法人部落解放・人権研究所は、貴研究所との連携をより一層密にし、これらの問題の解決にむけて調査・研究活動、啓発活動等を強化したいと考えております。終わりに、貴研究所のさらなる発展をお祈りし、設立四〇周年へのメッセージとさせていただきます。

一般社団法人部落解放・人権研究所

代表理事 奥田均 所長 谷川雅彦

新しい形で取り組んだ
第二回筑前竹槍一揆ウォークin福津
二〇一四年八月一七日(日)

第一二回筑前竹槍一揆ウォークの取り組みは、五月一日、唐津街道畦町宿保存会の事務局長である岩熊寛さんと会うことからスタートした。その日は、石瀧さんと私で岩熊さんが経営している「ぎやらりい畦」でお会いした。

昭和四七(一九七二)年発行の福岡町史(明治編)に旧八並村脇野家に残る柱傷の写真が掲載されていた(昭和四七年当時の脇野家宅の写真も掲載)ことを話したことから、一気に筑前竹槍一揆ウォークに話が進んでいった。そして本木地区に桑野岳幸さんというこの地の歴史に詳しい方がいらっしやるということが分かり、お会いすることになった。お宅を訪問すると、この筑前竹槍一揆に関する資料が和綴本にまとめられていた。それは、本木から一揆に参加した人たちの上申書であった。その取調所は畦町宿内にある護念寺ということも分かった。そして、第一二回筑前竹槍一揆ウォークin福津とし、本研究の主催(主管を歴史プロジェクト)、協力を唐津街道畦町宿保存会とし、ここにコラボが成立した。その後具体的な内容の打ち合わせに入っていく当日を迎えた。

八月一七日(日)、スタッフは畦町公民館九時集合だったが、畦町保存会の人たちはすでに迎える準備に着手してあった。早速、受付、竹槍ウォーク関連パネル展示、書籍コーナー、本

本の太鼓(本木区有御宮分太鼓が一九七三(昭和四八)年三月二〇日付で旧福岡部落史研究会に寄贈)の展示などを行った。そして参加者(約八〇名)一般参加者、保存会、研究所スタッフ)が集まり、開会行事となった。

開会行事は、主催者挨拶を森山沾一理事長が、地元挨拶を岩熊徹保存会会長が行った。日程説明を塚本が行い、石瀧理事が、一揆の発端から歴史的背景、地元の旧八並村庄屋宅の柱傷、本木西法寺の墓地にある一揆参加者の刑罰者の墓碑、取調所(畦町宿内の護念寺)など、筑前竹槍一揆に関する説明を行った。

午前中のウォークは、唐津街道畦町宿内を三コースに分かれて行った。Aコースは東構口(お祇園様・蚕博物館)護念寺・西構口。Bコースはお祇園様・蚕博物館(東構口)護念寺・西構口。Cコースは護念寺・西構口(お祇園様・蚕博物館)東構口。それぞれのコースに畦町宿保存会の方が付き、畦町宿の歴史・景観、自然などをガイドした。約五〇分の散策だった。畦町公民館

に戻り、それぞれ昼食をとった。ここで保存会から、お吸い物、もぐく、漬物が振る



一揆参加者墓碑の説明をする
石瀧豊美さん(左)

舞われた。

午後からは、筑前竹槍一揆関連地を巡った。今回は、真夏の取り組みということで、八並と本木は、車で移動するようになったため、配車割を行い、二コースに分かれて進めた。一コースは、旧八並村庄屋宅の柱傷(本木西法寺の墓地にある一揆参加者の刑罰者の墓碑)石瀧理事が、二コースは、本木西法寺の墓地にある一揆参加者の刑罰者の墓碑(旧八並村庄屋宅の柱傷を保存会の岩熊事務局長が説明した。約一時間四五分のルートであった。

畦町公民館に戻り一息入れた。ここで岡山県津山市加茂人権問題研究会から参加していたいた原田泰造さんから同じ明治六年に起こった「岡山県美作騒擾」について話をしていた。また感想として、会員だけの取り組みではなく、いろいろな方との協働作業の方法などを学ばれたことも話された。大分県の玖珠町、中津市からも参加があった。

閉会行事では、地元からの提供品が当たる抽選会が行われた。後援をいただいた福津市からの絵葉書、畦町宿の絵葉書(ぎやらりい畦)、まんが絵本館の絵葉書(まんが絵本館)、津屋崎人形(福津市観光協会)、唐津街道の本・九州文化図録撰書(図書出版のぶ工房)、手作り袋(石瀧氏)、如水庵のお菓子四種類(如水庵)などが景品として参加者に渡された。

最後に、当研究所の谷口事務局長が全体のまとめとお礼で会を締めくくった。

(歴史プロジェクト・塚本博和)

第十一回 海外人権・スタディツアー

スリランカ

二〇一四年八月一八日(月)〜二五日(月)

八月一八日夕刻、二〇一四年度の海外人権・スタディツアーの団員十一名は福岡空港から韓国の仁川経由でスリランカへ旅立った。日本との時差は三時間半。到着したのは翌朝の四時であった。

今回のツアーは、紅茶農園で働く女性たちや支援団体(PWG)との交流、女性開発センター(WDC)の視察、性的暴力を受けた女性たちのシェルターや障害者施設の訪問などを会員の松本京子さんがコーディネイトして催行。スリランカにおけるマイノリティの現状や支援団体の活動を知ることが主な目的であった。ツアーの団長は会員の松村良子さんが担ってくれた。スリランカ到着後、最初の二日間は、ネゴン

ボ、キャンデー市内と世界遺産のシギリア・ロック、ダンプラの石窟寺院を観光した。

八月二一日、キャンデー市内の女性開発センターWDC



WDCで説明を聴く団員(左側)

C(Women's Development Centre)を訪問し、様々な障害を持つ子どもたちが訓練を受ける様子を視察した。訓練する障害児のそばには、きょうだいや母親の姿もあった。「閉鎖された家庭環境の中で、障害児が差別や虐待を受けないためには家族の理解が重要です。そのため可能な限り家族には同伴を求めています」とスタッフから説明を受けた。その後、知的障害者のための職業訓練所を視察した。

夕方、性的虐待を受けた少女たちが共同で生活するシェルターを訪問した。この撮影は一切禁止であった。一三才から二十代までの被害女性たち三〇人が、スタッフとともに生活していた。部屋に入ると裁縫や刺繍をしている少女たちが立ち上がり、私たちを迎えてくれた。座っている姿ではわからなかったが、立ち上がると数人が臨月近くの少女たちであった。年齢を聞くと一三才から一六才だという。

スタッフによれば、家族を含めた身近な大人から性的暴力を受けて妊娠したという。彼女たちはここで精神的なケアを受けるとともに、裁縫などの職業訓練も受けて経済的自立をめざしていた。一三才の妊婦の、あどけない笑顔は衝撃的であった。私たちは手作りのポーチやクッションカバーを購入後、少女たちに見送られてシェルターを後にした。

八月二二日、ハットン紅茶農園を訪問。紅茶工場、工場長宅、農園内の保育園、農園労働者の長屋(ラインハウス)で話を聞いた。保育園児の制服は外国人支援者の寄付で作られたという。農園労働者の住まいは四軒ほどの長屋(ラ

インハウス)

で、台所は共同であった。シンハラ人が多数のスリランカだが、農園労働者のほとんどはインド系タミルのエスニックマイノリティである。紅茶農園で働く女性たちの多くは教育を受ける機会が乏しく、識字率も極めて低い。その子どもたちも高等教育の進学率が非常に低いという現実がある。



紅茶農園内の保育園児たちと交流

PWGでは、子どもたちへの奨学金支援や女性たちへの識字学級や権利学習などを行い、女性たちの自立をサポートしている。PWGとは「Penu Wimochana Granodayam」の略で、タミル語の「解放は女性の手で」という意味であった。

翌二三日は、コロンボ市内を観光し、二四日に団員は帰国の途についた。

一所懸命に生きているスリランカの人たちに出会ってきた。どこの国で生まれても人の営みに何ら変わりはない。そして、誰にでも教育を受ける権利がある。私たちには何ができるのか。そんな当たり前のことを改めて感じた旅であった。

(事務局・柳井美枝)

人権資料・展示全国ネットワーク
第一九回総会報告(於大阪)

九月二十五日(木)～二十六日(金)

九月二十五日、二十六日の両日、大阪人権博物館に於いて、人権資料・展示全国ネットワーク総会が、二二団体、三三名が集って開催され、当研究所からも参加した。

はじめに、甲賀・湖南人権センターの西川嘉代表から主催者挨拶、続いて事務局から二〇一三年度事業と決算の報告並びに二〇一四年度の事業と予算の提案が行われ、両案ともに議案通り承認された。今回は、三団体が新たに加盟するという嬉しい報告があった。加入により私たちの交流の輪が広がった事を喜びたい。

総会に引き続き、駒井忠之さん(水平社博物館)から「全国水平社創立宣言と関係史料」世界記憶遺産をめざしての支援、栗原祐司さん(東京国立博物館)から「日本の人権博物館の現状と課題」と題して話があった。また、『加盟団体からの報告』では葛西伸夫さん(水俣病歴史考証館)から「水俣市・水俣病の現在」、「現地からの報告」では朝治武さん(大阪人権博物館)から「水平社の世界記憶遺産」、浅居明彦さん(部落解放同盟大阪府連合会)から「浪速の歴史」等が報告された。今回初めて「水平社宣言」を解説付きで読ませて頂いた。貴重な体験をしながら、世界記憶遺産登録への運動をさらに広めていく必要性を強く感じた。二日目は部落解放・人権研究所の友永健三さんから「住吉地区の歴史と町づくり」の講演を

かりしました。



トロッコに乗る。狭い!

池島炭鉱は閉山してから海外の炭鉱研修生の為に研修を行うプロジェクトが行われていたため、坑道に入っただけの場所です。実際に使われていた掘削機を体験することができました。生の採掘現場というものを見ることができました。

つい最近まで動いていた機械をその場で見ることができるとは、資料館や映像では味わえない貴重な体験だと思います。

話の中で驚いたのは、島の東側がボタで埋め立てられているのですが、そこにはほとんど石炭が入っていないそうです。これまで見てきた炭鉱のボタ山では、かなり石炭が混じっているのだそうです。池島ではきれいに石炭だけを取り出す技術も進んでいたことが伺えます。

その他にも固い岩盤を砕く為のダイナマイトやそれを入れる為の穴を掘るドリル。実際に取れた石炭の大きな塊。事故が起こった際の一時避難所。ガスが発生した際に吊り下がったピニールを頭から被り、コックを捻って空気を吸いながら救援を待つ救急マントなどを見てもありました。そのマントのなかには針金が編みこんであり、静電気を逃がす効果があると聞き、

聞いた後、息子さんの友永健吾さんと二グループに分かれて住吉地区を案内して頂いた。その中では財政的に厳しい現状がいくつも見えてきたが、住吉東駅前前の「寿湯(共同浴場)」跡地に、二〇一六年四月を目途に、自前のセンターを建設する説明を受けた。その財源は運動を支えてきた方々の蓄えだということ。大阪のたくましい姿を肌で感じながらフィールドワークを終えた。

積む為には本来の池の水深では船が入りきらない為、まずは池を浚渫し、堤防を切り崩して海とつなぐ工事から始まった」と元炭鉱マンのガイドさんは誇らしげに話してくれました。池島炭鉱は一九五九年から掘り始め二〇一一年まで採炭していました。海底に広がる坑道は物凄く広く、長距離の移動の為に人を運ぶベルトコンベア(マンベルト)や坑道内を走る電車などもあったそうです。

部落解放同盟福岡市協議会

四支部合同青年部 日帰り研修

二〇一四年九月一日(日)

池島トロッコツアーにいつてきました。

白石裕一(馬出支部 青年部)

周囲四kmの小さな九州最後の炭鉱の島、池島。長崎県西彼杵半島の西、瀬戸港からフェリーで三〇分、人口二五〇人ほどの島です。

船で島に入るとまず驚いたのは島の名前にもなっている池を掘り下げて作ったという港でした。船着場の反対側には大きなベルトコンベアのクレーンがあり、当時は炭鉱から直接船へ石炭を積んでいたとのこと。「一日に何千トンも

そんな話を聞きつつヘルメットとヘッドライトを実際に付けていざ坑道へと入るわけですが、中に入るまではトロッコに乗って移動します。実際、今回の見学を決め手はトロッコに乗れるという点だったのです。しかし、実際乗ってみると、とても狭く、揺れる度にヘルメットと天井がぶつかり合い、隣の人もびったり接触し、この幅に3人とは信じられない座席でした。さらに高音を出しつつ進むトロッコに不安ながらも興奮していました。

こんなところにも災害を回避する為の工夫がされていることに驚きました。

炭鉱と聞くとやはり事故と隣り合わせのイメージがありますが、様々な設備を見ていると事故にあっても大丈夫なような気がします。後に昔ながらの坑道の作り方の場所も見せてもらいましたが、その部分と比べてみるとよりいっそう安心感が違いました。しかし、途中で坑道内の電気を消すと真っ暗になりヘルメットのライトだけで進むのはとても危険な感じがしました。実際にこれが災害時だったら……と思うとすごく緊張しました。

「御安全に!」
二手に分かれたグループとすれ違いざまに声をかけます。互いに安全を祈りつつ、安全に取り組みうとする気持ちが伝わる言葉だと思えます。その気持ちが、池島炭鉱が長くそして最近まで操業していた息遣いを感じさせました。

今回の見学を経て、自分の中の炭鉱のイメージがすごく変わりました。炭鉱と聞くと劣悪な労働環境を思い浮かべますが、昔と比べると技術や工夫の発展でこんなに環境は変わっているものだと思います。移り行くエネルギー問題の中で石炭から石油へと移り、炭鉱が次



格好も本格的、掘削機体験



救急マント

々と閉山に追い込まれる中で最後まで生き残った池島炭鉱。自分たちが明るく暮らすためにいくつもの切っ掛けは切れないものです。九州では、現在稼働している炭鉱はありませんが、これまで働いていた皆さんの人達がいたからこそ、様々なものが動いていき進化した今の自分達が生きているのではないのでしょうか? その中で働いていた人達の思いも一緒に感じられる大変貴重な見学でした。

青年部を取材した

「ハハ」のオルゴール」放送日程

- ・RKB ラジオ: 九月二十九日～十二月二十六日 (毎週月～金) 16:55～17:00
- ・FM 福岡: 十一月二十九日～二〇一五年三月十七日 (毎週月～金) 22:55～23:00
- ◆「あかりをつけよう」集まる若者たち」
- ・RKB ラジオ: 十一月二〇日
- ・FM 福岡: 二〇一五年一月五日、二月一九日
- ◆「結婚差別を乗り越えて」
- ・RKB ラジオ: 十一月五日、十二月二日
- ・FM 福岡: 二〇一五年二月四日、三月二八日

お知らせ

公益社団法人福岡県人権研究所主催

○第一八二回定例研究会

(教育部会・啓発部会・ジェンダー部会共同企画)

▽テーマ 「出口から問い直す進路保障」

↳自立支援の現場からの提言↳

▽講師 山田育男さん

(元埼玉県立浦和商业高校定時制教員)

▽日時 十一月二十九日(土)

▽会場 福岡市人権啓発センター(ココロン

センター)博多区下川端三二一

▽資料代 五〇〇円

▽外国人部会&海外人権・スタディツアー

スリランカ報告会

▽内容 ①外国人技能実習生の現状と課題

報告・山田澄子さん、稲月正さん

②スリランカツァー報告

報告・松本京子さん、松村良子さん

▽日時 二〇一五年一月二十四日(土)

▽会場 福岡市人権啓発センター

北九州市主催

○北九州ふれあいフェスタ二〇一四

▽日時 十二月七日(日)

▽会場 ウェルとばた(JR戸畑駅南口横)

(北九州市戸畑区汐井町一六)

※十月に開催した研究所主催の諸事業について

は、次号のニュースで報告します。

研/究/所/日/誌/か/ら (2014.8.17~2014.10.20)

8月

- 17 (日) 筑前竹槍一揆ウォークin福津(福津市)
- 18 (月) 海外人権・スタディツアー(スリランカ) (~8/25(月)まで)
- 22 (金) 『原口顕雄著作集』編集会議
- 23 (土) 糸島市人権教育研究大会(所長登壇)
- 25 (月) 事務局会
- 29 (金) 第48回松本・井元研究会
- 30 (土) 啓発部会(田川)
- 31 (日) 朝倉郡水平社創立90周年記念集会(朝倉市)

9月

- 3 (水) 『原口顕雄著作集』編集会議
- 7 (日) 宗像地区「同和」教育研究集会(宗像市)
- 14 (日) 第3回執行理事会
- 16 (火) 水平社博物館(守安館長、駒井学芸員)来局
- 17 (水) 水平社博物館(守安館長、駒井学芸員)来局
- 20 (土) 全国水平社宣言と関係資料の世界記憶遺産登録をめざす役員会(理事長)
- 22 (月) 事務局会
- 25 (木) 機関誌『リベラシオン』No.155発行
人権資料・展示全国ネットワーク第19回総会(大阪)
- 26 (金) 同上(二日目) 第49回松本・井元研究会
- 27 (土) 九州地区部落解放史研究連絡協議会事務局会(熊本市)
- 28 (日) 福岡部落史研究会設立40周年のつどい(福岡市早良市民センター)
- 29 (月) 事務局打合せ会 消防検査
- 30 (火) 『原口顕雄著作集』編集会議

10月

- 3 (金) 八幡企同推フィールドワーク(北九州市八幡西区)
- 4 (土) 部落問題、人権問題に取り組む全国研究所交流会(仮)(大阪)
- 5 (日) ハートフルフェスタ福岡2014(福岡市)
- 6 (月) 事務局会
- 11 (土) 部落史研究部会(福岡市)
- 16 (木) 啓発担当者の集い(第181回定例研究会)
- 18 (土) 第53回福岡県人権・同和教育研究大会(古賀 所長登壇)
- 20 (月) 事務局会 部落解放研究第48回全国集会(~22京都)

(※住民意識調査等の受託事業に関する調整・事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務や研修会等の企画、講師依頼への対応、40周年事業関連事務等については省略しています。)